

狭山エリア新聞

【問合せ先】ASA狭山市南部
 Tel: 04-2957-4447
 【発行所】狭山エリア新聞編集室
 Tel: 049-265-1886
 Fax: 049-265-1887
 【記事提供】狭山CATV

東急入間川自治会 防災訓練



11月8日(土)、東急入間川自治会で自主防災組織が中心となり自治会隣接のスーパー駐車場で『防災訓練』が開催されました。

自治会では、自治会会則・運営要綱で大地震が発生したときは、災害対策本部を自治会館に設置することとし、自治会長兼防災部長が本部長となり陣頭指揮をとるとともに、防災部員・自治会役員ならびにサークルのリーダーが中心となり災害対応を行うことになっていきます。今回は、その運営要綱に沿って、震度6の大地震が発生したことを想定し訓練が行われました。

はじめに、各班の正副の班長が4名ずつ22班に分かれ同自治会会員の安否確認を行い、552世帯の確認を災害対策本部に報告。また、狭山中央通り商店街74店舗の安否確認も行われ自治会だけでなく地元商店街との連携も図られています。訓練の内容は、無害な煙を使用して火災発生時の煙の状況を体験できるスモークハウス

の体験・水消火器を使った正しい消火器の使い方や放水訓練・あわてずに正確な情報を伝えるための119番通報訓練・怪我人発見を想定した応急処置訓練、また、意識不明者に対する心肺蘇生法を行う救急救命訓練やAEDの紹介も行われました。各訓練ポイントには、消防署職員・市の防災担当職員などが配置され、訓練中に気づいたことなどをアドバイスをしていました。訓練終了後は、炊き出し隊の作った豚汁や炊き込み御飯を食べ、参加者同士交流を深めました。また、防災グッズの販売も行われるなど防災意識をさらに高める1日となりました。

狭山台みつばさ保育園 秋の防火パレード

11月13日(木)、市内中央一丁目付近を、狭山市幼年消防クラブに属する狭山台みつばさ保育園長児37名の園児たちが、秋の火災予防運動の一環として『秋の防火パレード』を実施しました。

このパレードは、子どもたちに火災に対する正しい知識を身に付けさせる事、近隣住民に防火を呼びかける事が目的となっており、狭山台みつばさ保育園のほかにも、狭山市幼年消防クラブに属する1401名が晴天のもと、園児たちは約1時間街なかをパレードし、防火を呼びかけ、火の用心の掛け声と、拍子木の音が、街中に響きわたりました。

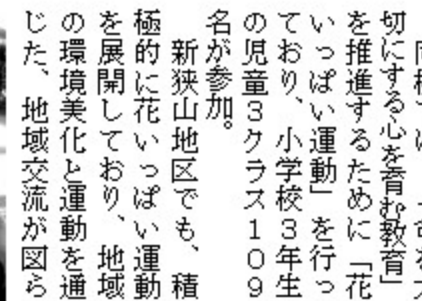


11月7日(土)28日の間、市内各地区でパレードを行います。広場で出発式をした後、揃いの法被を着た園児たちは「火の用心のうた」に合わせて拍子木を打ちながら、のほりをもってパレードを開始。歌の合間では、「僕達私達は火遊びは絶対しません」と全員でメッセージを伝えました。パレードの運営にあたり、保育園の職員をはじめ、保護者や消防職員・消防団・女性消防協力隊・交通安全指導員等が参加し、園児たちを見守りました。

子供たちとパンジーの植栽

11月6日(木)、新狭山にある三ツ木公園で、新狭山地区まちづくり推進会議と新狭山小学校連携のもと『パンジーの植栽』が実施されました。

同校では、「命を大切にしよう」という教育を推進するために「花いっぱい運動」を行っており、小学校3年生の児童3クラス109名が参加。新狭山地区でも、積極的に花いっぱい運動を展開しており、地域の環境美化と運動を通じた、地域交流が図られていました。



開会セレモニーでは、同校長・新狭山地区センター長、新狭山3丁目自治会長がそれぞれ挨拶。続いて、三ツ木園芸の近藤さんから花の植え方について注意がありました。まず、公園内の清掃の後、花壇10ヶ所に分かれ作業が行われました。花壇の土をならし、花の苗を一つずつ丁寧に植えていきます。作業は、地域の人と子ども達が一緒になって進められました。今回用意された苗は、パンジー200株とピオラ220株。1時間以内に公園の花壇は花いっぱいになりました。終了後、児童代表が「花植え作業は少し難しかったけど楽しかったです。来年の春まできれいな花を咲かせて欲しい」と感想を述べていました。

狭山市民劇団 ステップ 第13回公演 少年ラヂオ

11月9日(日)、狭山市民会館小ホールにおいて『狭山市民劇団 ステップ 第13回公演 少年ラヂオ』が上演されました。

狭山市民劇団 ステップは、平成7年に設立、狭山市を拠点に活動している劇団で、現在、狭山市近隣に住む18歳以上の団員18名が在籍、公演は1年に1回程のペースで実施されています。今回上演された『少年ラヂオ』は、演劇集団キヤラメルボックスの作品で、その脚本に劇団 ステップの演出が加えられました。舞台は大正時代の東京、スリで日銭を稼いでいた少年ラヂオが財閥の令嬢を助けたことをきっかけに事件に巻き込まれ、そこで出会

オーケストラと一緒に演奏

10月30日(木)、市立南小学校で舞台芸術体験事業『オーケストラ鑑賞会』が行われました。これは、子どもたちの芸術を愛する心を育て、豊かな情操を養うことを目的に平成14年から文化庁が実施しています。

今回の舞台芸術は、指揮・工藤俊幸氏、演奏・仙台フィルハーモニー管弦楽団によるもので、児童・先生・保護者・地域住民の約26名が体育館で鑑賞をしました。指揮者を体験出来るコーナーでは、大勢の希望者から6年生と2年生の2名が選ばれ、指揮者から振り方を教えてもらい、オーケストラの指揮をしました。「難しかった」と言う児童に指揮者からは「しっかりと振られていてよかった」と講評され、会場から大きな拍手が起りました。

また、「トレアドール」では、4名の児童がバスドラム・シンバル・トライアングルのパートで参加。これは、鑑賞会を前に同校を訪れた団員から指導を受けた児童達で、この日に向けて休み時間などを使って練習した成果をオーケストラに混じって発表しました。そして、合唱定番曲として人気のある、杉本竜一の「ピリッ」を1・2年生が鍵盤ハーモニカ、3年生以上がリコーダーでオーケストラと一緒に演奏し、来場者から感嘆の声も聴かれました。最後に、オーケストラ演奏による校歌の合唱があり、約1時間半の公演は終了しました。「本物のオーケストラを目の前で見れて楽しかったです」と感想を述べていました。



少年ラヂオは、演劇集団キヤラメルボックスの作品で、その脚本に劇団 ステップの演出が加えられました。舞台は大正時代の東京、スリで日銭を稼いでいた少年ラヂオが財閥の令嬢を助けたことをきっかけに事件に巻き込まれ、そこで出会った人々との交流を通して成長していくというストーリーです。来場者は、テンポのよいストーリー展開と団員の演じる登場人物のキヤラクターに見入っていました。

2日間で2公演を行い、およそ400名が会場を訪れました。

